



神宮寺便り

お彼岸が過ぎて、だいぶ暖かくなってきましたね。4月8日は仏教の開祖お釈迦様の誕生日です。この頃になると、僧侶はその誕生を祝って行われる花まつり開催に向けて忙しくなり、また楽しくもなります。今回は、そんな花まつりのお話しです。

花まつり

良啓

今から2557年前、ヒマラヤ山脈も麓にある小国家シャーキヤ族の王に、一人の男の子が生まれました。その子が生まれると、空から妙なる音楽が流れ、甘露の雨が降り注ぎ、誕生を祝福しました。

子供の名前は「ガウタマシツダールタ」、後に悟りを開かれ、仏陀になったその人です。生まれたばかりのガウタマは7歩進み、右手で天を、左手で地を指して、「天上天下唯我独尊」とお話しされました。

この様な誕生譚から、花まつりでは、右手で天を指し、左手で地を指す誕生仏に甘茶を掛ける作法があります。また、花まつりは別名「子供のお祭り」と言われ、稚児衣装に身を包んだ子供が祭りの主役になります。僧侶は、稚児の健やかなる成長を祝い、誂経します。

お寺は葬式する所と言う先入観をお持ちの方が多くですが、その様な事はありません。花まつりに参加されると、仏教の華やかな一面に触れる事が出来ます。是非とも、4月は花まつりにご参加頂き、仏様とご縁を結んで如何でしょうか。神宮寺の花まつりは4月3日を予定しております。

4月の神宮寺

4月3日 19時
神宮寺学ぶ会
(花まつり)
¥500

4月13日 11時半
沖縄県仏教会
花まつり
@神徳寺

5月の神宮寺

5月1日 19時
神宮寺学ぶ会
(阿字観)
¥500

お問い合わせは
892-3335 まで

弘法大師の言葉

裕俊

夏月の涼風、冬天の冽風、一種の気なれども嗔喜同じからず。
かげつ りようふう どうてん えんふう いっしゅう き しんきおん

性霊集卷一・徒に玉を懐く(定八・一八)

「夏の涼風は喜ばれ、冬の強風は怒りさえ覚える。夏の風も冬の風も風には変わりはないけれども、喜びと怒りを生じる。このように、すべての生きとし生ける物には等しく同一の覚りが具わっているにもかかわらず、心のあり様は同じではない。」

同じ出来事でも、立場によって気持ちが変わるといふ事があります。例えば、雨が降っているとします。洗濯物が干せない、遊びに行けない等と不満を抱えている人が居る一方、ダムに水が貯まるので断水の心配が無くなった、と喜ぶ人も居るかもしれません。

自分に対して不都合な事象が起きてても、これで助かる人がいるかもしれない、と捉えると心が晴れやかになるのではないのでしょうか。

今月のお茶「甘茶」

奈緒子

花まつりで誕生仏に掛けるお茶、甘茶。ユキノシタ科アジサイ属で見た目はまさにアジサイ。その葉を揉んで発酵させたものが甘茶です。ちなみに生の葉は苦いんだそうです。

その甘さはショ糖の400〜800倍とも言われ、お茶だけでなく甘味料などにも使われています。

よく「アマチャヅル」のお茶と間違えられますが、こちらはウリ科で別の物です。

普段はなかなか口にしない甘茶、仏様の誕生をお祝いするともにもその甘さを是非体験してみてください。

※こちらで紹介したお茶は毎月、「神宮寺学ぶ会」にて提供させて頂いております。日本産甘茶をご提供。